

002 がみちゃん

題名	作家	コメント	評価
1 岡山女	岩井志麻子	健ちゃんのあとなのでちょっと心配。 片目を失った妻が不思議な力を持ち、霊媒師を生業にし生きていく話。「ぼっけえきょうてい」よりインパクトは少ないが岡本綺堂に似たその時代の暗さが文章から立ち込めてくる。 明るい話、暗い話ではなくその時代の闇の深さといったもの。どこまでこの世界が完成されていくのか次回も期待してしまう。	☆☆☆
2 少年H	妹尾河童	正しく育った少年が少年らしい疑問を持ち、戦争の時代の矛盾の中を生きていく。敢えて上下を分けるのは、上はまだ暗い混沌とした時代にあっても人間らしさが残っているせい。是非 素直な心があるうちに子どもに読んで欲しい。	☆☆☆☆
3 心室細動	結城五郎	医者もの。パラサイトタイプの流行った頃、専門的なことを交えたミステリー。話は盛りだくさんでうまくまとまっている。このままでいいのかと思うと最後にやっぱりネと思う。専門的なことを知っている、人に対して優位に立っていると勘違いするのかしら？ミスを隠すというのはそういうことと思う。	☆☆☆

003 あみちゃん

美術の解剖学講義	森村泰昌	「女優になった私」で有名な森村泰昌の芸術論。芸術なんて興味ない派にも読み物として楽しめそう。	☆☆☆
冷暗所保管	ナンシー関	*週刊文春連載の「テレビ消灯時間」第4弾* ・未知なるハードコア・ムツゴロウ ・何故、木村拓哉は鼻をすすりあげるのか ・「21世紀の裕次郎」が決まっちゃったよ ～目次より 21世紀の裕次郎はどうしてるのかなあ。こないだまで「愛は正義」っていうテレ朝の中村玉緒主演ドラマに「21世紀の裕次郎」の審査員特別賞かなんかの子が出てたんだけど、これがまた期待を裏切らないダメさ加減。むしろ期待以上だった。グランプリ君が楽しみだ。	☆☆☆
テレビ消灯時間2	ナンシー関	*週刊文春連載の「テレビ消灯時間」第2弾* ・「実業家」藤井フミヤの理屈つき芸術 ・安藤優子にも年齢があったって驚いてはいけない ・子役から女優に変身を試みる安達祐実の一進一退 ～目次より	☆☆☆

牛への道	宮沢章夫	くだらない……。くだらないことを考えはじめると際限がなくなる。全編そんな感じ。	☆☆☆
建築探偵東奔西走	文・藤森照信 写真・増田彰久	* 「近代建築」にかけては鑑識眼、推理力ともに並ぶものはない名探偵の大学教授と建築写真家がオモシロ建築を求め、東へ西へ……。ユーモア溢れる語り口で宮殿から豪邸、監獄、教会、銭湯といった数々の名建築、変りダネの建物全25物件を紹介。シリーズ第1弾* 刑務所の長い長い廊下に規則的に連続するドア。こんなきれいなものってないよなあ、と思う。	☆☆☆☆
建築探偵雨天決行	文・藤森照信 写真・増田彰久	* シリーズ第2弾。気分が安らぐ刑務所、由緒ある遊郭、とんでもない姿の学校など19物件を紹介* 誰もが知っている東京の玄関口、東京駅も完成までには紆余曲折があったのです…。ちなみに完成当初の東京駅は3階建てのドーム屋根だったものが、東京大空襲で3階部分が焼き尽くされたため、2階建てのとんがり屋根に縮小され復旧されたのだとか。	☆☆☆☆
建築探偵神出鬼没	文・藤森照信 写真・増田彰久	* シリーズ第3弾。名探偵が国内、上海、北京、ベトナムへ…。国内のものもあわせ教会、ホテル、銀行など29物件を案内* うちの近所の大倉山記念館（旧大倉山精神文化研究所）も紹介されている。 この建てものはプレ・ギリシャ様式で世界的にも例がないとのこと。大倉山駅前の商店街は大倉山記念館にちなみ、「ギリシャ風」に統一されているのだが、実は「ギリシャ様式」と「プレ・ギリシャ様式」は造形的には正反対。「プレ・ギリシャ」と紹介したはずのものがいつのまにか「プレ」が取れて「ギリシャ様式」になってしまい、町まるごとヘンなことになったらしい。エルム通り（大倉山商店街のこと…。）では、畳屋も布団屋も外観はギリシャ風です。建替え当初は幼心に恥ずかしいと思ったものだけど、最近じゃなんとも思わなくなった。慣れって恐ろしい…。	☆☆☆☆
建築探偵奇想天外	文・藤森照信 写真・増田彰久	* シリーズ第4弾ではオモシロイ建築を求めて日本全国、はては海外まで。プラハの街並み、国会議事堂、日銀本店…と様々な建物の謎に迫る*	☆☆☆☆
赤瀬川原平の今月のタイトルマッチ	赤瀬川原平	* 本邦初！読まずに書く書評。本を読むのは苦手。でも「見る」のは大好き。そんな赤瀬川原平が中身を読まずに本のタイトルだけで書評を試みたらこうなった！* 原平流でいけば、「洗脳の人生」一すごいタイトルである。字義通りに考えて、脳を洗い続けた人生。連想ゲームみたい。自分でやってみた	☆☆

		ほうが楽しそう。	
秘宝耳	ナンシー関	<p>* 週刊朝日連載「小耳にはさもう」パワー爆発の第5弾!! 有名人65人がもらしたひと言をすどくきわどく調理する*</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「森光子さんはお姉ちゃんって感じですね」 滝沢秀明発言</li> <li>・ 「ノストラダムスの七の月が過ぎて安心できるようになってー」 長嶋一茂発言</li> <li>・ 「周りの人からは大人っぽくなったっていわれます」 安達祐実発言</li> <li>・ 「生きたオカマは初めて?」 おすぎとピーコ発言</li> <li>・ 「はい、では申し上げます」 近藤サト発言</li> </ul> <p>～目次より</p>	☆☆☆
ROADSIDEJAPAN 珍日本紀行 ～西日本編	都築響一	<p>* ここには「旅」につきものの小洒落たフロ・メン情報も、ワビサビ空間もない。むしろ醜悪・珍奇、ガイドブックにさえ紹介されない珍スポットばかりが詰め込まれている。秘宝館、蝋人形館、町おこしが生んだ珍妙な博物館、意味不明のテーマパーク…。日本のロードサイドは俗悪・軽薄、地元の間人でさえ存在を忘れたい珍スポットがあふれている。でも、これこそがいまの日本なのだ。本当の旅を始めよう。美しくない、品のない、でもちょっと可愛い、素顔の日本へ! 本当の秘境は君のすぐそばにある。路傍の奇跡ともいべき全国の珍スポットを走り抜ける旅のガイド西日本編、北陸から沖縄まで165物件*</p> <p>おもしろい。廃墟系とトマソンの匂いぷんぷんで個人的にめっちゃめっちゃツボ。 軍艦島、「毒ガス島」大久野島…、行きたい。</p>	☆☆☆☆ ☆
ごちそう探検隊	赤瀬川原平	<p>* 九州に住んでいた少年時代、納豆は幻の食べ物だった。甘納豆から甘を取った食べ物って何だろう? 機内食はどうしても飛行機に乗らないと食べられないのか? 好奇心と食欲のおもむくままつづったエッセイ*</p>	☆☆☆
BANANA FISH 全11巻	吉田秋生 (漫画)	<p>数年前に読みかけて挫折した「BANANA FIISH」に再挑戦。 私達の世代でも未だに「少女漫画の傑作といえど…」みたいにいわれるけど、読んでみてなるほど納得。長編ならではの読みごたえ。たぶんこれからも何度も読み返すことでしょう。</p>	☆☆☆☆ ☆
BANAN FISH ANOTHER STORY	吉田秋生 (漫画)	<p>短編4編を収録。「BANANA FISH」の後日談「光の庭」がいい。</p>	☆☆☆☆ ☆
Heaven? 1, 2巻	佐々木倫子 (漫画)	<p>「動物のお医者さん」の佐々木倫子の最新作。 いまのところおもしろいよ。</p>	☆☆☆